

# 頑張る看護師さん奮闘記 ～戦場の助産師編～

## 世界から学んだ私の仕事

高校の廊下の壁に貼られていた赤十字のポスターを見た時から、すべては始まった。「この子のために何か、したい」。そう決心した少女は看護師になり、助産師になった。少女の名は内木美恵さん。その時の気持ちのままに、何ができるか、今も考えている。

### 助産師の仕事は 女性の自立を支援すること

「毎日どのくらい運動してる？ トドになつてちゃダメよ。お産、大変になるからね」 出産を間近にひかえた妊婦さんのお腹に手を当てながら、日頃の生活の様子を聞き、アドバイスをされる内木さん。2007年7月から、内木さんら助産師が中心になって立ち上げた、助産師による妊婦健診、助産師外来でのひとこまだ。

「生活習慣や食生活はもちろん、胎教や赤ちゃんが生まれた後の暮らし方まで、かなり突っ込んで話をします。どんな産み方をしたいのか、どんな子育てをしたいのか。ときには女性が望む事が子どもにとってプラスではない場合もあります。助産師外来は、お母さんにとって、子どもにとっても、夫や他の家族にとっても、幸せなライフスタイルを産む前から真剣に考える場でもあるのです」 大森赤十字病院では、助産師外来のほかに、産後のお母さんのための『乳房外来』、1歳未満の子どもの持つお母さんたちの『ここにこクラス』が開かれ、助産師は、ここでもお母さんたちのさまざまな思いや悩みを受け止めている。「正常で健康なお産であれば、必要な

のは、より社会的なサポート。出産を女性の第二の出発点と考え、その後の人生につなげたいのです。こんなに頑張ったんだから、何かあっても乗り越えられようと、女性の自立を支援していきたくいすね」 病院に任せる出産ではなく、妊婦さんが主体的に『自分の出産』をやりとげる。助産師の役割はその営みを手伝い、その後に展開する人生を、医学的、心理学的アプローチだけでなく、社会的な側面からも応援していくことだと、内木さんはいう。

### 戦地で知った 人それぞれの幸せのかたち

内木さんのその思いは、国際救援活動の豊富な体験から培われた。「私が看護師になったのは、高校時代に見た赤十字のポスターがきっかけでした。アフリカの子どもの、まっすぐに私を見つめてた。ここに行かなきゃ、なにかしなきゃと、日赤の看護師になったんです」その後、助産師の資格もとって忙しく充実した毎日を送っていた内木さん。それでも、心のどこかでポスターの子どもが忘れられなかった。

「入職して5年目に、初めてカンボジアに行きました。最初は情けないくらい何もできず、毎日泣いてたんですよ。誰

も見えないと思つてたのに、子どもたちの遊び場から丸見えだったらしく、いっしょに遊ぼうって(笑)」

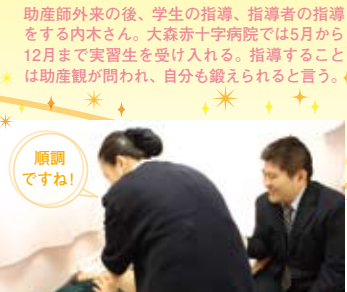
その後は、内戦中のルワンダやコソボ、フセイン政権が倒れた直後のイラク、大地震の被災地インドネシアなど、赤十字の国際活動にたて続けに参加。宗教も文化も違う異国で、医者にかかる自由さえ持てない女性たちを数多く見てきた。それでも、子どもを産む喜びに輝く彼女たちの笑顔は、内木さんの心に、大きなものを残した。

「日本だったら助かるはずの妊婦さんが、出産後に死亡することは珍しくありません。でも、彼女たちは『ここまで生きて、子どもを産めて幸せだ』と、みんな笑顔なんです。人の幸せってなんなんだろうと…」

幸せの価値は人それぞれだと知り、世界でも日本でも、目の前にいる女性たち一人ひとりの人生が、もつと幸せになるように仕事をしよう。いつしかそれが、内木さんの目標になった。

「目標に近づくために通信大学を卒業し、大学院で学びました。そして経験を積んで、それでもまだまだ、やればやるほど、やりたいことが増えてくる」

これからの助産師には、施設内の業務だけでなく、女性の全期を支援する



赤ちゃんの心音を初めて聞いて、感動するお父さんに「お父さんも、しっかりサポートしてあげてね」と内木さん。「会えるのを楽しみに待ってるよ!」とお腹の赤ちゃんにみんなで呼びかける。

元気に育ってね!  
順調ですね!

活動が必要であり、これは、初潮、妊娠、出産、閉経と、体と人生の節目を通して女性の一生に関わることが、助産師本来の役割だと思っからだ。

今は看護師長として、同じ志を持つ人材を育てようと後輩たちの指導にも熱が入る。「ありがとうと言われて喜ぶようじゃプロとはいえない。助産師は黒子であり、見返りを求める仕事じゃないよ!」 大森赤十字病院の産婦人科病棟には、内木さんの徹しくも愛のこもった檄が、今日も飛んでいる。



大地震後のインドネシアで妊婦さんの健診(左)と出産(右)。戦地や被災地での救援活動は、自分が持つ全ての力が試される。究極の現場で学ぶことは、はかりしれない。



世界、日本そして地域で苦しむ方々の苦痛を軽減するためにあなたの力をかしてください

## 患者さんのそばにいる看護

病院見学会 / 採用試験

随時受付中、お電話にてお問い合わせください

看護部03-3775-3111 (内線206) 前日17時までにご連絡ください

<http://omori.jrc.or.jp>

**大森赤十字病院**

日本赤十字社 〒143-8527 東京都大田区中央4丁目30番11号 看護部:03-3775-3111(内線206)



大森赤十字病院が新しく生まれかわります  
新病院開院予定 平成23年秋全面竣工

2005年 スマトラ沖地震  
赤十字国際救援派遣



内木さんへの3つの質問

大森赤十字病院 助産師 看護師長  
内木 美恵さん

Q1. 助産師という仕事をしていて、一番幸せを感じる時は?

A. 赤ちゃんの生まれる瞬間を目撃できること。やってやるぞ! って顔で出てきます。これ、お母さんでも見られません。

Q2. ご自分の性格を自己分析すると?

A. 始めのうちは、ぼーっとしてます。少し状況が見えてくると猛進し、これだと思ったらスッポンになります。

Q3. 夢実現のコツは?

A. まず周囲に言いふらします。これが私はやりたいと。あとは突っ走る。ただし恋愛でこれをやると引かれます(笑)。



「看護師のまど」では、  
内木さんからの  
応援メッセージを  
紹介しているよ!

看護師のまど  
[www.kangoshinomado.com](http://www.kangoshinomado.com)